

学院時報



「中学校男女共学」

ドミニコ学院新たな伝統の創造

聖ドミニコ学院理事長
中学校高等学校校長・幼稚園園長
小笠原明之



「皆さま方は、本学院で幼稚園から、あるいは小学校から学ん

できました。私たちの願いは、さらに中学校でも学び続け、『建学の精神』のもと自己実現に向け、成長の土台を大きく築いてほしいということです。中学校では、昨年度から開始した給食をとおして、体力の基盤となる食育に取り組み、知・徳・体の調和と豊かな心を育んでいます。さらには、授業や各種学校行事等で小学校とも連携し、一人ひとりの未来を育んでいます。なによりも安心して学ぶことができる環境があります。なお、中学進学に関して、些細なことでもお聞きになりたいことがありましたら、中学校校長 小笠原までお問い合わせくださるようお願い申し上げます。聖ドミニコ学院でも進む行く手に華を開かせましょ

う。」

この文面は、ドミニコ学院に勤めた一年目の二〇一七年十二月八日付けで、なんとか小学校の児童・保護者の方々に思いが届かないかと考え、当時の六年生女子児童保護者並びに六年生女子児童の皆さまにあてて出した手紙です。(この時は、まだ男女共学の動きはありません。)

二年目に中学校男女共学を理事会に提案し、同意を得て昨年二〇二〇年四月から男子生徒を受け入れることができました。

二〇二一年一月七日に実施した中学校I期入試において、男女共学二期生となる二十一名(男子十一名)が出席してきました。また、ドミニコ小学校からは先輩に続けと九名(男子六名、女子三名)が受験しました。昨年のI期入試への出願は男女合わせて十名でしたので、倍の数です。一月二十三日に実施する中学校II期入試での出願状況がこのあと明らかになります。(これを書いているのは、二〇二一年一月中旬)

皆さまの声にしっかりと応え、何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、園児・児童・生徒のために、学校法人聖ドミニコ学院の明日を拓いていくことに努めます。

繫心響歌

「繫がる心と響く歌」

小学校合唱団顧問 齋藤 朋枝

昨年の三月、突然の休校で卒業演奏会は中止。大好きな先輩方と最後に歌うことができないうままお別れとなった春。

新緑の季節を迎えても、練習再開の見通しは立たず、不安だけが膨らむ毎日。

「コロナに負けてなるものか」

休校中は、私が送る楽譜や音とりのCD、動画を用いて、家で工夫しながらの自主練習。困難な状況にも、歌うことを決して諦めなかつた子供達の姿に、沢山の勇気をもらった。

学校再開後、コンクール中止に涙も溢れたが、歌える喜びは、特別なステージだけでなく、いつもの音楽室にあることを改めて感じ、前向きになれた。六年生が考えた今年度の目標は、「繫心響歌」。受け継がれた合唱団の歌声と情熱を、未来へ繋ぐ使命をもって歌う日々。応援して下さる方々との繋がりも大切に、感謝を希望の歌声として表せるように努力し続けたい。

No.96
 令和3年3月1日発行
聖ドミニコ学院
 幼稚園・小学校
 中学校・高等学校
 〒980-0874
 仙台市青葉区角五郎2-2-14
 URL: <http://www.dominic.ac.jp>
 TEL 022(222)6337
 FAX 022(221)6203

北仙台幼稚園
 〒981-0914
 青葉区堤通雨宮町11-11
 TEL・FAX 022(234)3615



受賞歴

tbcこども音楽コンクール
 宮城地区音源審査
 小学校・合唱の部
 優秀・審査員特別賞

宮城県合唱アンサンブルコンテスト
 金賞 河北新報社賞(第一位)
 ヴェリタスチーム
 カワイ賞(第二位)
 カリタスチーム

第十四回声楽アンサンブル全国大会
 出場決定(公募審査通過)

聖書のいよば

「そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けた。」

(マルコによる福音書1章9節)

人生で洗礼に勝る喜びはないと聞くが、私も全く同感である。あの突き抜けるような解放感と喜びと幸福感は今も自分の深みにある。洗礼時、父と子と聖霊のみ名によって三度頭に聖水を受ける。水はこれまでの罪の浄化のしるしで、罪からの解放をもたらすものであったのだ。水の中で古い自分に死んで、新たに神の命そのもの、父と子と聖霊の愛の中に生まれるのである。それでは、罪のないイエスがなぜ洗礼をお受けになったのか。ペネダイクト十六世は「罪の中にありながら正しく生きようとしている人々の連帯性の中に、彼が生きていることを欲した」とおっしゃっている。死すべき罪ある者が神の子として、今日も父なる神の愛のうちにてイエスの兄弟として生きることができるとは幸いである。

聖霊なる神様が皆様の新たな歩みをお守りくださるようお願いいたします。

副校長 柚木 洋子

幼稚園

運動会

お天気に恵まれた中、十月三日に運動会が行われました。子どもたちは、夏休み明けから運動会に向けて練習を頑張り、運動会の目玉である各年限のお遊戯では、年毎毎に練習したお遊戯を披露しました。

満三歳児は、フルフルフルーツの曲に合わせて、保護者の方と踊りました。それぞれフルーッのお面をつけて可愛らしく踊ることができました。年少児は、おさかな天国の曲に合わせて元気いっぱいダンスを踊ることができました。年中児は、バルーンです。沢山練習して難しい技にも挑戦しました。心を一つに頑張ったバルーンは、とても綺麗でした。そして、最後は年長児です。なわとび、組体操、ソーラン節の三部作を披露しました。はっぴを着て踊る姿は、「さすが年長！」という素敵な姿でした。園児席の子ども達も年長児の姿に憧れている様子でした。

それぞれ年齢毎の成長が見られる運動会だったと思います。保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。



クリスマス礼拝会

「神様が贈ってくれた救い主イエス様をよい心でお迎えできるようにお祈りします」
待降節の間、毎日子ども達は、幼稚園そして家庭の中で、イエス様を迎える心の準備ができるよう、自分ができることや良い心を考えながら、過ごしてきました。子ども達は、優しい気持ちで過ごせた時、我慢することができた時など、その心をお金に換え、世界で困っている方のために届くよう、手作りの献金箱に献金をし、願いを込めました。

礼拝会当日、心こもった献金箱を持ってきてくれた子ども達。心のプレゼントの紙には、待降節中に過ごした子ども達、そして保護者の方々の温かい気持ちが記され、献金箱とともに、イエス様にお捧げしました。司式をしてくださった元寺小路教会の李錫神父様は、子ども達の祈りを神様へと大切に伝え、温かい祝福をくださいました。クリスマスが、希望の光であつたように、新型コロナウイルスによる不安な状況が続いている中にも、全世界に希望の光が灯ることを願っています。

待降節の間、子ども達もともに幸せな日々を感じ、感謝しながら過ごしてきました。これからも互いに感謝の気持ちを大切に過ごしていきたいと思ひます。



劇

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、二部構成で行いました。前半に行った満三歳・年少児は初めての聖劇でした。クリスマスの本当の意味について、絵本を通して知り、イエス様誕生の喜びをたくさんの方に味わってほしいと願ひ、日々練習を頑張っていました。当日は、緊張しながら登園してきた子ども達もたくさんいましたが、与えられた役を大切に考え、可愛らしい衣装を身にまとい、素敵な歌声を聖堂内に響かせました。イエス様誕生の喜びを保護者の方と一緒に分かち合い、よいひと時を過ごすことができました。

年中・年長児では、緊張と喜びの中、衣装に着替えて友達と台詞の確認をし、各々が与えられた役を責任をもって行おうと気持ちを高めていました。今回は、コロナ禍でマスク姿で演じましたが、子ども達は自信にあふれ、明るく元気な歌声を通して喜びが表現され、保護者の方にもイエス様誕生の幸せを届けることができました。

この冬休み中「もう一回マリア組さんから幼稚園に通いたいなあ」と急に言い出した娘に驚かされました。



園生活を振り返って

吉田 美穂
この冬休み中「もう一回マリア組さんから幼稚園に通いたいなあ」と急に言い出した娘に驚かされました。

未就園児クラスをほぼ体験しなかったこともあり、マリア組に入園した当初は朝に制服を見ただけで泣き、朝のバス停でも地面に寝転がって泣く毎日でした。親としても迷いながらの日々でしたが、ひと月過ぎてどんなお友達ができたか聞くと「ブラウンくん」と、ウサギの名前を大切そうに口にしていてことを懐かしく感じます。

年少で周りに助けられながら大勢の中で生活することを学び、年中でお仕事を通して目標を達成する喜びを知り、年長では周りの動きを見て、考えて行動することが身に着いたように感じます。入園当初のあの状態からここまで成長でき、冬休みの発言につながったのは一緒に過ごしたお友だちや、常に支えて見守ってくださった先生方のおかげです。ドミニコ幼稚園での経験は、必ず今後の支えになると信じています。本当にありがとうございました。



北仙台幼稚園

年少

子どもたちの大好きな「はらへこあおむし」の絵本をもとにした劇を行いました。
年少児四十三名でかわいなおおむしに変身。はらへこのあおむしは何が食べたのかを考えて意見を出し合いました。ぶどう・りんご・いちごなどの果物の他に、ラーメン・ハンバーグ・春巻きなど子どもたちが大好きな食べ物が挙がりました。

練習では、歌やセリフを覚え、元氣いっばいに表現する姿が見られました。「先生、今日もはらへこあおむしやりたい!!」と言う子どもたちのキラキラした表情が印象的でした。

本番では沢山の保護者を前に緊張する姿が見られましたが、最後までそれぞれの役をやり遂げることができました。
発表会を通して、クラスの枠を越えて友だち同士が輪が広がり、相手を思いやる言動が増えてきた年少児。進級の期待を胸に、楽しく過ごしている姿が見られる今日この頃です。

年中

年中児は「さるかに合戦」の話を基に劇を行いました。劇の導入で物語の内容を知り、「さるは悪い」「意地悪したら自分に返ってくる」「やり返されたさるも可哀想」などと子どもたちの感想は様々でしたが、ずるい気持ちや意地悪なこと、友だちを思いやるとはどういうことなのかを考える良いきっかけになりました。子どもたちから、「喧嘩をしたなら最後は仲直りしたい」という意見があり、原作をアレンジした内容になりました。役決めではさる役は不人気でしたが、話し合いを進める中で役を譲る姿が見られました。また、最初が練習に身が入らなかった子どもたちでしたが、日々の練習を重ねる中で自分の役になりきって演じたり、友だちと力を合わせることに大切さを知り、練習に励む姿が見られました。

発表会を通して年中児同士の仲が深まり、友だち関係にも広がりが見られているところです。

年長

年長児は「いちばんはじめのクリスマス」という、イエス様の誕生についての聖劇を行いました。
クリスマスとはどんな日なのかと考えながら練習を進めていきました。一人ひとりが自分の役を大切に、責任を持って取り組みることができたのではないのでしょうか。

今年の発表会はコロナウイルス感染拡大防止のため、学年ごとに保護者を入れ替えての開催となりました。例年とは異なる環境の中でしたが、保護者の皆様に子どもたちの成長した姿をお見せすることができました。本番はいつも以上に緊張していた子どもたちでしたが、堂々と自分の役を演じ、保護者の皆様に喜んで頂けたことで達成感と自信に満ちた表情でした。

聖劇の練習を通して、自分のことだけを考えるのではなく相手のことも思いやる心、そして最後まで諦めずにやり遂げることの大切さを学び、益々逞しくなった年長児でした。



作品展

今年の作品展は自然をテーマにしており、「海」「大地」「土」「宇宙」の四つに分けて表現しました。当日は子どもたちが年間で作ったたくさんの作品を幼稚園のあちこちに飾り、保護者の皆様にもお越し頂きました。今年にはコロナウイルス感染拡大防止のため、二月五日の午後と二月六日の二日間に分けて実施しました。様々な制限がある中ですが、家族に自分の作品を紹介しながら園内を案内する子どもたちの嬉しそうな姿が見られます。学年活動で作った作品だけでなく、朝の時間を使って行っている自由選択活動で取り組んだ作品も展示されており、お兄さんお姉さんたちが作り上げた作品を憧れの眼差しで見つめている様子もありました。



節分・豆まき

二月二日に豆まきを行いました。節分とはどんな日なのか、どうして豆まきをするのかというお話をして、みんなでお話をして、「おにはそと」の歌を歌いました。
「おにはそと、ふくはうち」と掛け声の練習をしているところに鬼がやって来て、子どもたちはびびり！驚きながらも練習を思い出し、鬼に向かって一生懸命豆を投げました。鬼が怖くて泣いてしまう子もいましたが、友達と一緒に勇気を出して鬼に立ち向かうことが出来ました。どうして幼稚園に来たのか鬼に質問してみると、どうやらみんなと一緒に遊びたかったようです。そのことを知ると、子どもたちは鬼の近くに行つて話し掛け始める姿もありました。初めは怖がっていた子どもたちも、先生と一緒に挨拶や握手をして鬼と仲良くなる事が出来ました。一年を健康に過ごすことが出来ますように。



クリスマス礼拝会

幼稚園では十一月二十四日から待降節が始まり、どのような気持ちでクリスマスを迎えるかを子どもたちと一緒に考えました。世界には病気や貧困で苦しんでいる人もいるということを知り、自分たちが恵まれた環境の中で元気に暮らしているということは、決して当たり前のことではないのだと気づいたのではないのでしょうか。子どもたちは周りの人たちのために出来る良い行いについて考え、自ら進んで取り組んでいました。

十二月十八日のクリスマス礼拝会は、コロナ禍ということもあり、感染防止対策を行いながらの開催となりました。自分たちで作った献金箱と心の花束をお捧げし、子どもたち一人ひとりを神父様に祝福して頂きました。

自分のことだけでなく、困っている人のために何かをしたいという優しい心でクリスマスを迎えた子どもたちは、またつ成長することが出来たと思います。



小学校

運動会

いつもは五月に行う運動会。今年度は形態や種目数を変えるなどして、十月の開催となりました。当日は気まぐれな雨雲のいたずらに中断されながらも、元気いっぱいの子供たちの笑顔がはじけ飛びました。

コロナに負けるな!

「最高の新運動会にしよう!」
元気なスローガンの声とともに、今年の運動会が始まりました。

三年生になって初めてのきょうぎの一つは、つな引きです。みんなのかけ声でいきさを合わせながら、ずんずん引っぱっていきました。もう一つは、タッチダウンリレーです。これは、思った以上にラグビーボールが大きくて、投げるのがむずかしかったです。

チームはそう四位でしたが、みんなで力を合わせる事ができたのでよかったです。来年は一位を目指してがんばりたいです。



仲間とともに

三年 遠藤 萌々子
運動会でわたしが好きなきょうぎは、つな引きです。かけっことは自分一人でするきょうぎだけれど、つな引きは仲間と力を合わせて引く張り合うところが楽しいからです。

つな引きが始まる前、チームリーダーの六年生が「がんばれ!」と声をかけてくれました。おかげで、グリーンは二試合とも勝って、つな引きの部で一位になることができました。

そう合結果は五位でしたが、はらはらどきどき感が面白かったし、チームのみんなが応援してくれてたので楽しかったです。



六年生のフラッグダンス

三年 市川 高眞
六年生が、列を作って並び、すわりました。定位位置に着いたところで、「紅蓮華」の曲がかりました。笛が鳴ると六年生が立ち上がりはたをふりました。

六年生の動きがびったりと合っていたので感心しました。

今までの六年生がやったことのない、はたを横に持つて右からウエーブをするという技にちようせんしていたので、すごいと思いました。ほくも、六年生になったら、今までの六年生がやったことのない技にちようせんしてみたいです。



長距離走記録会

毎年恒例のOB会後援会主催のミニ駅伝大会。広瀬川の河川敷で多くの保護者の方や地域の方から声援を受けて、子供たちは一生懸命たすきを繋いできました。今年も、大校庭を一年生は六〇〇m、二、三、四年生は八〇〇m、五、六年生は一〇〇〇mを走る、長距離走記録会を

実施しました。



『協力できた最後のチーム競技』

五年 松本 孔一郎

コロナ禍で運動会同様、例年のミニ駅伝大会ではなく、長距離走記録会となりました。今年も頑張ろう週間があったので、「カード提出率一〇〇%」を目指して毎日参加しました。そして発表の時は、五年生が全学年の一位の提出率でした。来年は、みんなと呼びかけあって、提出率クラス一〇〇%を目指して頑張っていきたいと思ひます。

記録会当日は、応援歌を作って歌ったり、みんなでも応援をしたりしてチームの力になるように頑張りました。そして何より記憶に残ったのが、頑張ろう週間で六年生が声を張って応援をしていたり、みんなが楽しく参加できるように声かけをしていたりしたことです。そんな姿を見て、尊敬しました。ほくたちが六年生になったら、今の六年生がしてくれたことを参考にしながら、チームを活気づけていきたいです。

この長距離走記録会では、速いタイムを出すことが大切です。しかし、自分だけでなく、周りのみんなも力を出し切ることができるよう、応援をして、チームの絆を深めるための日だったということを知りました。

長距離走記録会で見つけた友達の良いところから学んだことや、コロナ禍でも一生懸命応援して、ほくたちも下級生から信頼される六年生になりたいです。

応援の力で限界突破

五年 川村 心映

コロナのため、例年とは異なり、長距離走記録会が大校庭で行われました。この日のために、私は毎日「頑張ろう週間」に参加しました。頑張ろう週間では、密を避けるために三学年が合同で走ります。その中で、前の人を抜かそうという気持ちで芽生え、力を出し切るように練習しました。

本番では、自分の番が近づくと胸がドキドキし始めました。そんな状態の中、ついに自分の番がきました。「よいい、ドン!」の合図で、私は一気にスピードを出しました。そのため、途中でスピードが落ち、その間に数人に抜かされてしまいました。その時、同じチームの子のアドバイスや、クラスの友達の応援が聞こえ、やる気がわきました。苦しいと思ひながら走っていましたが、なんと最後まで走り切ることができました。

今までの頑張ろう週間に毎日参加したことで、やり遂げる力と体力が身に付きました。そして、私の目標だった「七位以内に入る」という目標は、友達の応援によって達成できたのだと思ひます。たくさんの力を身に付けることができた、初めての長距離走記録会でした。

ラストスパートで味わった達成感

五年 大西 はる

コロナ禍の中の開催で、ミニ駅伝大会とは少し変わった長距離走記録会でした。私は、走って感じたことが二つあります。

一つ目は、頑張ろう週間で努力した時の目標がとても役に立ったことでした。私の目標は、体力向上に向けて最後まで歩かず、走り切ることでした。この目標を設定した理由は、体育の授業で一回目のタイム測定の際に、自分のタイムが遅かったからです。その悔しさから、絶対

にタイムを締めようとかい、自分の学年の練習の時間以外にも走れる時には走りまわりました。

二つ日は、自分のペースをくずさないことで、本番で走っていて最後の一周になった時、口の中が乾燥していたのか、とても苦しくなりました。しかし、後ろを走る人の息の音が聞こえて、私も頑張ろうと思い、ラストパートをかけた。結果は、練習の時のベストタイムよりも四秒縮めることができました。そして五年生女子の部で二位になることができました。これもみんなの応援や、頑張ろう週間での自分の努力の結果だと思いました。

初めての長距離走記録会でしたが、私は悔いなく終わらせることができたと思います。これからも、どんなことにも目標を立て、自分なりの努力をしていきたいと思っています。

待降節 クリスマス礼拝会

今年度は、聖堂での密を避けるために二日間に分けてクリスマス礼拝会を行いました。例年とは異なる状況でしたが、高学年を中心に素晴らしい聖劇を見せてくれました。またクリスマス礼拝会に向けた待降節の期間、子供たちはそれぞれ学校目標「思いやりのある言動を心がける」と個人目標を守ることを心がけました。初めての待降節、クリスマス礼拝会となった一年生の感想文を紹介します。

一年 兼堀 心花

わたしはたいこうせつで、「お先にどうぞ」ともだちにゆずることができました。クリスマスらしいはいはいでは、六年生のげきがつてもきれいでおどろきました。とくにヨゼフさま、マリアさまのうた「えがうつくしかったです。

わたしは「ありがとう」と、ともだちにやさしいことばをつかいました。クリスマスらしいはいはいでは、六年生のうた「えがきれいでした。げきを見ると、心があたたくなりました。

一年 大山 花

わたしはたいこうせつで「いつもじかんをまもる」というもくひょうを立てました。それからじかんをまもるためにすばやくうごいて、よいなことをしないように気をつけました。前よりじかんをまもれるようになりました。

一年 淺川 慶夏

クリスマスらしいはいはいでは、四、五、六年生のうたの声がすてきでした。うつくしく、きれいなた声で心にひびくうたでした。私も四、五、六年生のようにきれいな声でうたえるようになります。

一年 小林 あかり

たいこうせつわたしのもくひょうは「先生にあいさつをする」でした。わたしはまいあさ先生にあいさつをするようになりました。これからもできていい気ぶんになりました。これからもつづけていきます。

はじめてのクリスマスらしいはいはいはとてもわくわくしました。げきやうたでイエスさまのたんじようをおいわいしました。とくにがっしょうだんのうたがともきれいでかんどうしました。わたしも大きくなったうたうたしてみたいです。



宮城県アンサンブルコンテスト 合唱団の挑戦

新型コロナウイルス感染症の影響で、発表の場であり挑戦の場でもあるコンクールやコンテストが次から次と中止になっていました。そんな中開催された「宮城県アンサンブルコンテスト」にて、合唱団はこれまでの様々な思いを歌にのせ、会場に響かせました。

結果、出場したヴェリタスとカリタスの二グループが第一位と第二位に輝きました。合唱団団長でもあり、ヴェリタスチームを率いてきたリーダーの仲間と共にコンテストにかけた思いを紹介します。

真理への道

六年 佐藤 那虹

今回、私はアンサンブルコンテスト(アンコン)にチームリーダーとして出場しました。今年、コロナの影響で声を出すにも対策をしなければいけません。いつもみんなで楽しく歌っていた日々は、当たり前ではないと改めて思いました。みんな「歌が好き」ということに変わりはありません。ですから、このアンコンというチャンスを逃してはならないと思いました。マスク越しでも伝わる「表情」、「素直」な歌声、そして「ハート&ハーモニー」を目標に掲げました。これは、マスクを着けていても自分達らしい歌声、表情で演奏できるようにと考えての目標です。

私は、チームをまとめる際、まずパートの中で声を合わせるようにしました。全体でするよりも小さなグループでする方が理想の声の使い方、表し方が見つかると思ったからです。

と、理想の声のために必要なことがわかり、一つのこと集中することができました。そして、声にもまとまりが出てきました。コンテスト当日、今まで積み重ねてきたものを発揮できる最大のチャンスです。六年生は、最後のコンクールになるかもしれません。このメンバーで作り出せる最高の演奏にしようとして、ステージに上がりました。歌を歌っている時が今まで一番楽しく、一人一人の個性ある声があるのピースのようにはまった気がしました。コロナ禍にあっても取り組んだアンサンブルコンテストで、一回一回の練習に真剣に取り組むこと、一人一人の声がみんなの力になることを再確認できました。悔いなく歌いきれるよう、アンサンブルコンテストでの学びをバネに、日々練習を積み重ねていきたいです。



【訃報】

小学校で長年英語を教えて下さった唐沢千香子先生が一月下旬、天に召されましました。いつも笑顔で心優しく、分かりやすい授業をしていただきました。心よりご冥福をお祈りいたします。

中学校

2020年度を振り返って



中学校主任 成毛 祥代

まいった今年度。オンラインを経て学校が再開されても集会はなし、大小に関わらず行事も次々中止となり、これは中学校に於ける行事の意義について改めて考えさせられる契機となった。

例えば野外活動で生徒達は調べ学習をし、行動計画を立て実践し、結果を振り返る。運動会では一〜三年生が皆で協力して練習し、高校生のお姉さん達相手に戦う事で団結する。つまり今年度は縦横の繋がりがもじつくり話し合う事も、生徒が大きく成長する等の機会がほぼ全て、かなりの制約を受ける事になってしまった。

焦った私達は夏以降少しでも「経験」を取り戻そうと、できる行事は復活させた。野草園や水族館への校外学習、隣県への修学旅行の実施等である。参加を控えるのも考え方なので、最終的には保護者の方の判断が良い。ただ機会は作らないとその選択肢もなくなってしまう。

私達は来年度も学習活動とコロナ対策を両立させなければならぬだろう。中学の学習は机上の勉強だけでは完結しない。どうかこの私達の思いをお汲み取りいただき、各御家庭からも引き続きできるだけの協力がいただけるよう、お願い申し上げる次第である。

巣立ちゆくあなたたちへ！

三年A組担任 木村 匡子



時のたつのは早いものです。慣れ親しんだこのクラスから巣立つ時が来たのですね。

卒業おめでとう!!
ドミニコで一番人数が少ないクラスでした。意見の違いなどでぶつかり合うこともありました。ですが、足りない部分を補い合い、助け合い、互いを思いやって、どこにも負けない連帯感でどんな行事にも精いっぱい取り組んできました。

令和二年度、最上級生としてのスタートは：コロナ。すべての行事が無くなり、下級生とも思うように交流できない日々となりました。そんな中、下級生に喜んでもらえたらと、絵手紙用の紙漉ハガキを一枚一枚丁寧に漉きました。校外学習の日：素晴らしい作品がたくさん生まれた野草園での一日になりました。

みんなと楽しく笑顔で過ごしたい。誰かのために役に立ちたい。そのように日々過ごしてきたあなたたちを誇らしく思います。

一人ひとりが他の誰にも負けない力を持っているのです。自信をもって、ゆつくりじっくり自分の選んだ道を歩んで行ってください。失敗を恐れなくていい。いつも応援しています。

最後になりましたが、保護者の皆様これまでのお力添えに心より感謝申し上げます。

三年間の思い出

三年A組 山田 真歌



中学校三年間、長いようであつという間でした。一年生の頃の記憶は

ほとんど無いですが、一つ一つの行事に緊張していたことは覚えてます。何をすることも知らないことだらけだったからです。

二年生の行事では、野外活動が一番記憶に残っています。道やバス停を見つづけるのに時間がかかったりしましたが、楽しく盛岡市を冒険しました。民泊では大自然の中を散歩したり、花火をしたり、いつもしないことを体験させていただきました。

三年生での一番の思い出は自粛かなと思います。三年生に進級した感覚もないまま休校になってしまったため、不思議な数ヶ月でした。それでも修学旅行など出来る範囲での活動では、たくさん思い出を作る事が出来ました。

喧嘩や意見のすれ違いが多いクラスでしたが、それでも良い思い出もたくさんあり、楽しい中学校生活でした。

活躍するドミニコ生

【聖ドミニコ学院高等学校】

- 全国共通規定演技パトコンテスト ソロトワール中級 銀賞 3年 山内 愛美
- 第十八回全日本バトントワリング選手権宮城県大会 ソロストラット シニアI部門 第一位 3年 清野 絢花

- 第十八回全日本バトントワリング選手権宮城県大会 ソロトワール 女子シニアI部門 第一位 3年 清野 絢花
- 令和二年度 宮城県高等学校剣道大会 優秀選手賞 3年 千田 優香

- 宮城県高体連仙塩支部錬成剣道大会 女子団体 第一位 剣道部
- 二〇二〇年度 第五十五回国際理解に関する弁論大会(兼 第六十七回国際理解・国際協力のための高校生的主張コンクール) 1年 相澤真耶花

- 第四十二回仙台市私立高等学校女子バレーボール秋季大会 レシーブ賞 3年 鎌田 璃華
- 第四十二回仙台市私立高等学校女子バレーボール秋季大会 功績賞 3年 楠 夏穂

- 令和二年度 仙台市「ころの輪を広げる体験作文」高校生部 優秀賞 1年 山田 にな
- 宮城県高等学校体育連盟 剣道専門部 功労賞 3年 宇佐美萌花

- 令和二年度 宮城県高等学校新人大会 女子個人 第一位 2年 小山 結衣
- 令和二年度 宮城県高等学校新人大会 女子団体 第一位 1年 山下 紗知

- 令和二年度 宮城県高等学校新人大会 功労賞 3年 菅原 瑠衣
- 令和二年度 第四回「わたしのおすすめしたい本」ポップアップ作品コンクール 高等学校の部 優良賞 3年 菅原 尚央



修学旅行だより

修学旅行

三年A組 佐々木 瑛舞



私達は、修学旅行でブリティッシュヒルズ

ズへ行きました。ブリティッシュヒルズは敷地内の建物が全てヨーロッパのような外国風の建物で、標識や看板も英語で書かれていたので、本当に外国に来たように思えました。泊まった部屋の鍵も日本ではあまり見なかったもので、最初は戸締りが大変でした。

修学旅行で感じたこと

三年A組 奥田 倅



修学旅行は、ブリティッシュヒルズで二泊

三日を過ごしました。英国をテーマに造られていて、外国に居るような空間でした。初めて訪れる私にとっては、授業をしてくださる先生やスタッフの方たちにきちんと英語で話せるか不安でしたが、優しく教えていただけたので安心して過ごすことができました。一日目は、ブリティッシュ

授業やフリータイムも会話は英語でした。授業は外国人の先生で、色々な国から来た先生が教えてくれました。先生達はとても明るくて優しい先生が多かったので、楽しかったです。

フリータイムでは、体育館でバドミントンをしたり、お土産ショップに行ったり、パブでバタービールを飲んだり、グッズをして過ごしました。

今回の修学旅行は、外国に行くことは出来ませんが、本物の英国のような場所での普段は出来ない貴重な体験もたくさん出来てとても楽しかったです。



ヒルズの事や入国審査、チェックインの体験ができて良かったです。食事は英国の家庭料理で本格的なディナーコースやバイキングも楽しめました。

二日目は、レッスンの日でした。班の友達と協力したゲーム感覚の授業もありました。また、キャンドル作りやポストカードを書いて家族に送ったりと、貴重な体験ができました。

私たちは、雑貨やお菓子、紅茶などを売っているお土産ショップで買い物を楽しみました。夜にはパブに行きみんなでバタービールで乾杯をしました。とてもおいしかったです。他にもグッズを楽しみました。英国の雰囲気味わえた楽しい夜になりました。

今回ブリティッシュヒルズに行ったことで、英語がより身近になり、自分の言いたいこと、自分の意思が相手に伝わることで自信が持てた良い機会となりました。



○令和二年度 宮城県読書感想文コンクール自由読書部門 (兼 第六十六回青少年読書感想文コンクール) 宮城県 県審査会

部会長賞 2年 佐藤 由菜
特選 2年 佐藤 由菜
金賞 2年 浅野 優里
銀賞 2年 神尾 知歩
銅賞 2年 牧山 知叶
銅賞 1年 大槻穂菜美
銅賞 1年 遠藤 彩月

○第六十八回全国公募小中高児童生徒徒川開書道展
特選 2年 佐藤 由菜
金賞 2年 浅野 優里
銀賞 2年 神尾 知歩
銅賞 2年 牧山 知叶
銅賞 1年 大槻穂菜美
銅賞 1年 遠藤 彩月

【聖ドミニコ学院中学校】

○仙台市中学校総合体育大会 三年連続優勝 剣道部

○令和二年度仙台市中学校新人大会剣道競技 青葉区 女子団体 優勝 剣道部
一年女子個人 第一位 1年 釋迦那 日菜
二年女子個人 第三位 2年 伊藤 レナ
二年女子個人 第三位 2年 狩野 景衣

○令和二年度仙台市中学校新人大会 バドミントン競技 女子団体 第三位 バドミントン部
○令和二年度 仙台市緑と花いっぱい絵画コンクール 百年の杜づくり賞 3年 佐々木冬乃 佳作 1年 竹野はるい

○第十四回 東北の建築を描く展 入選 2年 玉澤優佳子
○令和二年度 仙台市「ころの輪を広げる体験作文」中学生の部 最優秀賞 2年 玉澤優佳子 優秀賞 2年 狩野 景衣

○令和二年度 仙台市「障害者週間のポスター」中学生の部 最優秀賞 2年 佐々木 瞳 優秀賞 2年 藤島 楓

○第二回宮城県年金ポスターコンクール 入選 3年 山田 真歌
○令和二年度 仙台市中学校読書感想文コンクール 自由読書部門 入選 3年 佐々木冬乃

○第四回宮城県中学校新人剣道選抜大会 剣道女子団体 第一位 中学校 剣道部
○第六十八回全国公募小中高児童生徒徒川開書道展 金賞 1年 竹野はるい

高等学校

卒業する皆さんへ



第三学年主任 伊東 正史

卒業おめでとうございます。皆さんはこの三年の間で多くの先生、友人、先輩、後輩と知り合い、切磋琢磨して成長してきました。

皆さんは今、どのような気持ちでいるでしょうか。楽しい思い出とともに、苦労したこと、困難にぶつかったことなど、苦い思い出も数多くあったと思います。特に、高校三年生では、コロナウイルス感染症の影響で六月からの学校再開、学校行事や各種大会の中止などで、満足できる高校生活とは言えなかったのではないのでしょうか。しかし、このような状況の中でも皆さんは、一人ひとりが卒業後の進路目標達成に向けて一生懸命努力していました。そのような皆さんの成長した姿を見たとき、頼もしさを感じずにはいられませんでした。

これから皆さんが進む先には、もつと困難で答えが見つからない課題があるかもしれませんが、皆さん自身が果敢にチャレンジして、新しい道を切り拓いてほしいと思います。踏み出すには勇氣やエネルギーがたくさん必要かもしれません。時には失敗するかもしれませんが、「迷ったときには、まず一歩前に足を踏み出す」ことが、自分を成長させてくれると信じて進んでください。

最後に、保護者の皆様には、常に本校の教育に御理解と御協力をいただき、温かく学年を支えてくださいましたことに心から感謝を申し上げます。

三学年担任から

いまからがスタート



三年一組担任 小野 遼也
三年一組担任 小野 遼也
卒業おめでとうございます。

この三年間を振り返ると、特進コースα系β系七期生、最後の世代として入学した皆さんは学校側も初めてのことが多く学年だったと感じています。先輩たちから行き先が変更となった長崎修学旅行では、長崎大学の留学生との国際交流やベロン体験、ペンギン水族館が昨日のように思い出されます。また、特に大きかったのは大学入試改革でしょうか。外部英語検定試験利用の導入やポートフォリオ利用の有無、最後には新型コロナウイルスによる長期間休校とそれに伴う入試の実施方法や日程の変更など、色々と振り回された二年間でした。しかし、どの生徒も挫けずに、自分の夢を叶えるために精一杯努力し、合格を次々と勝ち取っていききました。

四月からはいよいよ新生活が始まり、一人暮らしを始める人も出てくると思います。ここからがスタートです。ここまで育ててくれた保護者の方々への感謝することを忘れずに、何かの機会に親孝行をしてください。今後のご活躍をお祈りしています。

三年二組の皆さんへ



三年二組担任 伊東 正史
卒業おめでとうございます。

卒業おめでとうございます。皆さんは、一年生の時は物理基礎の担当として、二・三年生は、担任としての関わりでした。

一年生の物理基礎では、「どうしたら五〇分の授業に集中してもらえるだろうか」という悩みの連続でした。最初は「こんなに勉強するの？」と驚いていた皆さんも何とか無事に一年生を終え、私も教科担当として安堵しました。しかし、予想もしないことが起こりました。何と担任として二年生になった皆さんと再び関わることになったのです。座席を工夫した席替えやお楽

ドミニコ学院で得たこと



三年三組 宮鹿野 涼花

私は三年間聖ドミニコ学院で過ごし、たくさんのお話を学びました。この三年間は多くの方々の支えがあったおかげで充実したものとなり、私自身大きく成長することができたと思っています。

聖ドミニコ学院での三年間で得たことは、「壁を乗り越える力」です。私は高校二年生の冬に部活動で大きな怪我をしました。それは、十二年間続けてきたバレーボールが、身体的にも精神的にも出来なくなるほどの大きな怪我でした。この高い壁を私は三つの力で乗り越えることができました。一つ目は「周りの力」、二つ目は「前向きに考える力」、三つ目は「自分を信じる力」です。特に一つ目の「周りの力」については、部の仲間や先生方、そして家族の力がなかったら、「前向きに考える力」「自分を信じる力」には辿り着けなかったと思います。今の私がいるのは周りの方々のおかげだと強く思うと同時に、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

この聖ドミニコ学院で様々な経験が出来たこと、たくさんの方に会えたことは、私にとつてかけがえのない宝物です。これからはそれぞれが選んだ道に進んでいきますが、みんなが活躍することを願っています。

輝く未来へ！一歩前進



三年三組担任 高橋 和花
三年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。振り返ってみるとあつという間の三年間だったのではないのでしょうか。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により新学期が六月からという異例のスタートとなりました。三年生はいよいよ進路活動を本格的に開始する矢先で不安な気持ちでいっぱいだったと思います。学校が再開して元気な皆さんに会えたときは本当に嬉しかったです。幸いにも三年間全クラスの体育の授業を持たせていただきました。クラスごとにカラーがあり全クラス一生懸命授業に取り組んでいる姿を見ていると元気をもらっていました。これから先、様々なことがあると思いますが自分の信じた道をどんどん突き進んで行ってください。人生は日々勉強の連続、失敗は成功のもとです。たくさんのお話を聞き、自分に自分を磨いてください。

これから先も皆さんのことを応援しています。そして、いつでもドミニコ学院に遊びに来てください。保護者の皆様におかれましても、三年間本校の教育活動に御協力いただき深く感謝申し上げます。



各コースの1年を振り返って

転換期

特別進学コースリーダー

小野寺 達也

今年度一年間は大きな転換期であり、いよいよセンター試験が廃止され、大学入学共通テストが導入。また、いわゆるAO入試と呼ばれる入試も総合型選抜と名称が統一され、今まで以上に高校生活での学習や探究の方法が問われる時代に入ってきました。

今年度の特進コースの卒業生からは、新型コロナウイルスによる入試の日程や選考方法の変更などにも負けず、東北学院大学や東北福祉大学などの県内の大学をはじめ、上智大学や聖心女子大学といった関東圏の大学にも合格者を輩出することができました。(大学入学共通テスト実施前にこの文章を書いているため、一般選抜の合格者は除いております。)

来年度も新型コロナウイルスの影響が続く、思うようにオープンキャンパスに参加したりすることが難しい状況が続くかもしれません。その中でも、校内でガイダンスをしたり、時にはオンラインでの実施も活用しながら、生徒たちが進路選択で困らないように我々も日々勉強しながら進んでいく必要があると痛感させられる一年間でした。



コロナ渦でも奮闘

幼児保育進学コースリーダー

佐藤 正久

新型コロナウイルス感染症が現在も終息していない状況下、幼児保育進学コースの生徒と教員は様々な方々の協力をいただきながらなかなかの奮闘を見せています。

夏休み明けには、系列幼稚園での運動会や一日入園、冬休み中のお預かり保育に参加することができました。また、「総合的な探求(学習)の時間」の特別企画として、宮城県内の生活困窮家庭を支援しているフードバンクや子ども食堂などのNPO法人の方に御来校いただき、その具体的な活動内容やそれを続けている現場スタッフの思いを直接語っていただきました。生徒がこれまで取り組んできた学習をさらに深めることができました。

掲載した写真は、この一連の流れの中で、三年生の生徒有志が自主的に始め、約七五〇冊を集めた絵本の一部を、富谷市にあるNPO法人東北フードバンクAGAINの事務所にお届けした時の模様です。



総合進学コースでの光景

総合進学コースリーダー

小野寺 原

総合進学コース第二学年は、中堅学年として高校課程における主要五教科の基礎学力確立に努めて日々生徒たちは勉学に励んでいました。二月には首都圏大学の教授をゲストに招いてズームによる進路探究ワークショップを行う予定です。(執筆時は一月)これにより生徒たちは「なぜ学ぶのか」「なぜ大学や上級学校に進学するのか」を十分理解したうえで、受験勉強をスタートできるものと確信しております。

総合進学コース第1学年は、進路実現のために日々努力を重ねています。昨年十二月のLHRでは、特別進学コースの三年生の中で、すでに私立大学の進路を決定している先輩方からの進路講話を聞く機会を得ました。

身近な先輩方の体験に基づく話を聞き、生徒たちは皆、自分達の進路実現に生かせる内容を聞きもろすまいと、熱心にメモを取りながら真剣に耳を傾けていました。この時の思いを忘れることなく、二〇二一年も誠実に努力していきましょう。

キャリアデザインコース

キャリアデザインコースリーダー

及川 俊浩

キャリアデザインコースの特色の一つに社会人講座「ドミノの森」があります。しかし今年度はコロナ禍の影響もあり、六月の学校再開後も開始は見合わせていました。九月から開始しましたが、授業を実施する学校側はもちろん授業をしていただく講師の方々にもコロナウイルス対策をしていただきながらの実施となりました。

二年生は社会を知ろう、をテーマに様々な職業の方々を招いて、なぜこの仕事をするようになったのか、仕事の内容はどうなのかなのか、働くということとはどのようなことなのか、な

どを話していただいたり、体験させていただいたりしてきました。中にはこの状況下での自社の生々しい業績を話して下さる経営者の方おりました。

三年生は社会に出るために、をテーマにしたが、進路実現に向けて、その後の指針となるような内容を考えておりましたが、お願いしていた講師の方々の予定変更もあり、講座の開催が困難の状況になっておりました。そのような状況でしたが、一月十四日、即興集団インプロ仙台の山本力氏を招いた講座を開催しました。山本氏がいかにかにして即興劇の道にたどりついたかの話しもさることながら、いくつかのワークを通して、普段とは違うものの見方や考え方も大切であるということや学ぶ機会となりました。

今後も社会で活躍している方々を招いて、生き方、考え方を学んでいきたいと考えております。



令和三年三月卒業生の進路合格状況

(令和3年2月18日現在)

「大学合格者」(26名)

東北福祉大学(4)・東北学院大学(3)・仙台白百合女子大学(2)・宮城学院女子大学・尚絅学院大学・東北生活文化大学・東北文化学園大学・石巻専修大学・東北芸術工科大学・医療創生大学・上智大学(2)・聖心女子大学・順天堂大学・桜美林大学・東京造形大学・城西国際大学・梅花女子大学・十文字学園女子大学・立命館大学

「短期大学合格者」(8名)

仙台青葉学院短期大学(2)・聖和学園短期大学・東北生活文化大学短期大学部・宮城誠真短期大学・東北文教大学短期大学部・上野学園大学短期大学部・長崎短期大学

「専修各種学校合格者」(19名)

仙台幼児保育専門学校(4)・仙台理美容専門学校(3)・東北電子専門学校(2)・仙台医療スポーツ専門学校(2)・仙台ベクトル総合専門学校・東北文化学園専門学校・仙台大原簿記情報専門学校・仙台医療福祉専門学校・仙台医療福祉専門学校・仙台ECO動物海洋専門学校・仙台スイーツ&カフェ専門学校・仙台リゾート&スポーツ専門学校

「就職内定者」(4名)

株式会社サンマリ・株式会社ハマノホテルズ・株式会社パンセ・株式会社ファミリート

